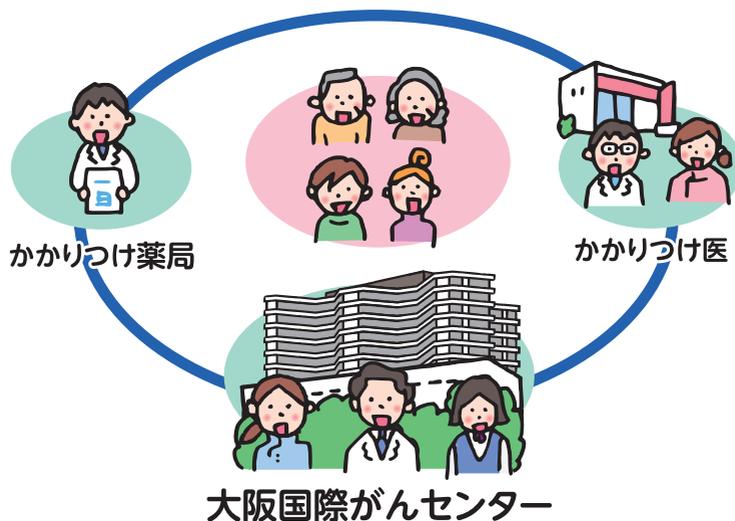


病院へ連絡が 必要な症状



- 38.5度以上の発熱があるとき
- もしくは、起き上がれないくらい強い倦怠感があるとき

上記のような症状がみられたら、かかりつけ医
または当院へ連絡しましょう。



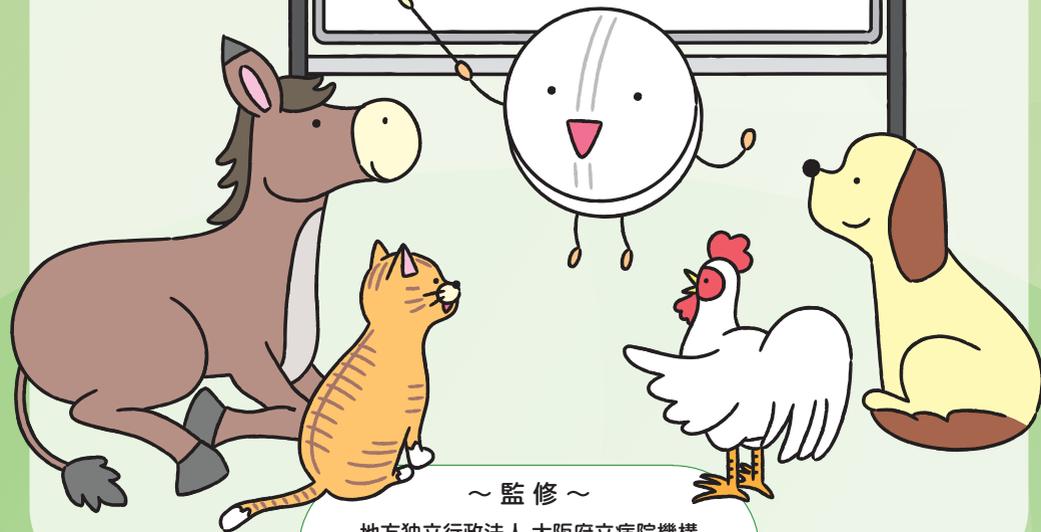
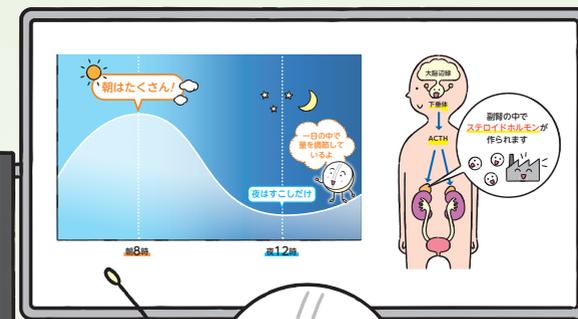
地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター
TEL：06-6945-1181(代)



副腎皮質機能低下症の
治療を受ける患者さんへ

副腎機能低下症と コートリル[®]

～安心して治療を続けるために～



～監修～

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター
免疫療法対策チーム (ICIP)

副腎機能低下症とは？

副腎機能低下症とは？

副腎機能低下症（副腎不全）とは、さまざまな原因により、副腎からステロイドホルモンの分泌がうまくいかなくなる病気です。

ホルモンが不足すると、**疲れやすい・食欲がない・吐き気がする**などの症状があらわれます。

さらに重症となると、**命にかかわる状態になることもあります。**

治療と薬について

体で足りなくなったステロイドホルモンを補うために“コートリル®”というお薬を飲みます。

正しく服用することで、症状をしっかり抑えることができます。

「ステロイド」と聞くと、副作用が心配な方も多いと思いますが、副腎機能低下症の場合は“体に必要な分だけを補う治療（補充療法）”なので、**適切な量であれば副作用の心配は少ないです。**



Dr'sポイント

足りないホルモンをきちんと補うために、**毎日決められた量を飲み続けることがとても大切です。**また、体調が悪いときには**量を調整する必要がある**こともあります。



副腎機能低下症の症状



Dr'sポイント

これらの症状は、1つだけ現れることもあれば、複数の症状が同時に現れることもあります。症状の現れ方には個人差があります。



ステロイドホルモンについて

私たちの体を守ってくれる大切なホルモンです。

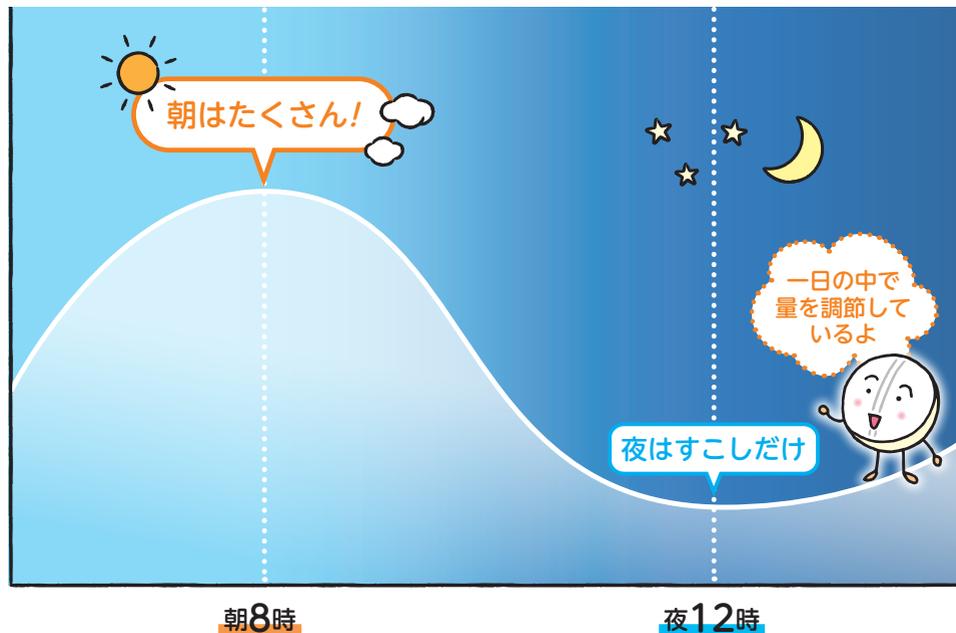
ステロイドホルモンは生理的に体から分泌されています。

分泌量は朝が一番多く、夕方になるにつれ少なくなります。

発熱などで体にストレスがあったときに、体を守るためにこのホルモンは分泌量を増やし対応してくれています。

ステロイドホルモンの分泌量が不足している場合は、これらの生理的な働きができなくなります。

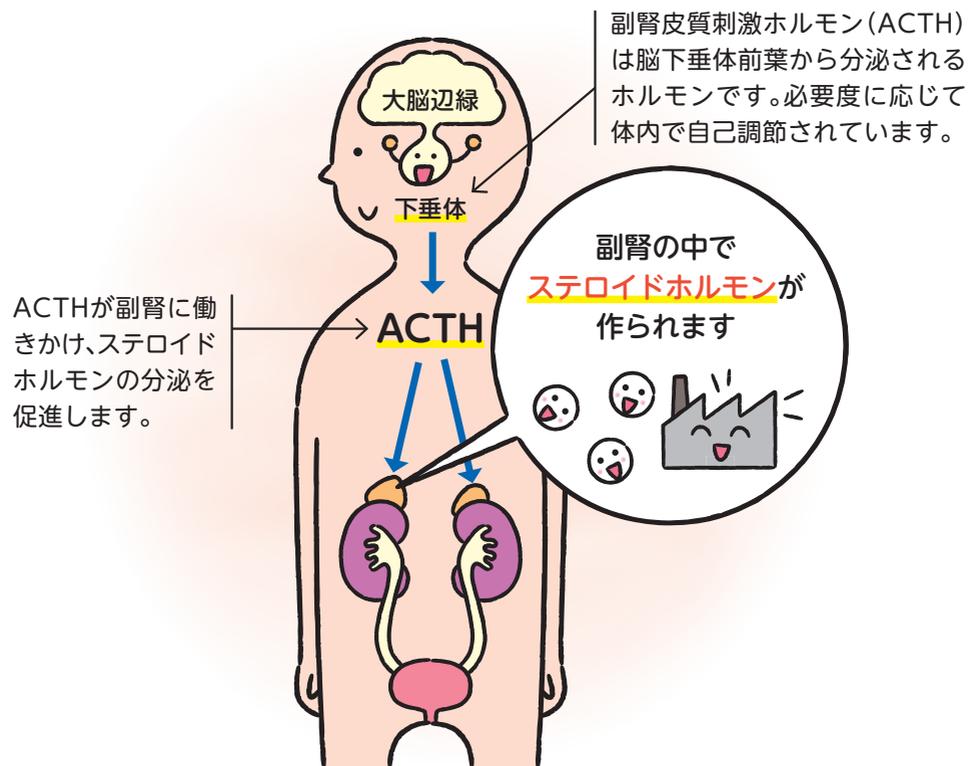
ステロイドホルモン(コルチゾール)の分泌量



ステロイドホルモンの分泌

ステロイドホルモンは下垂体からの指示を受けて副腎で分泌されます。

ステロイドホルモンは、腎臓の上にある副腎から分泌されるホルモンです。必要度に応じて体内で自己調節されています。



Dr'sポイント

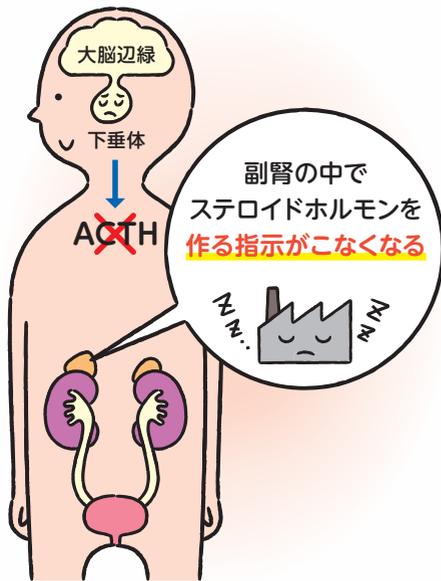
ステロイドホルモンは日常的に分泌されています。体はストレスに応じて、脳から指令を出してホルモンを出します。



副腎機能低下症の種類

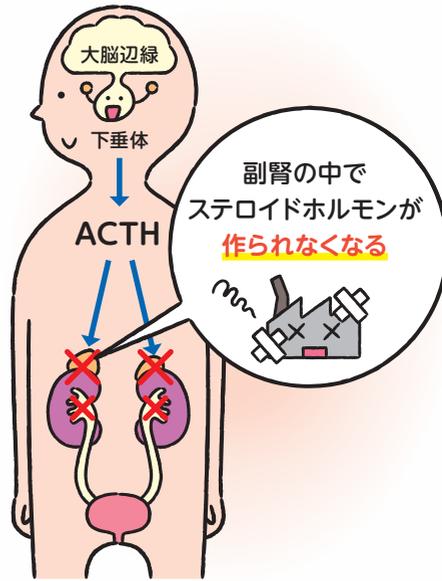
副腎機能低下症は大きくわけて二つのパターンがあります

下垂体が障害された場合



下垂体が働かないと、副腎に指令が届かず副腎はステロイドホルモンを作る指示がなくなります。

副腎が障害された場合



副腎が障害されると、指令が届いても副腎はステロイドホルモンを作ることが出来なくなります。

機能できない副腎の代わりにコートリル®が働きます。コートリルは、体の中でつくられるステロイドホルモンと似た働きをするお薬です。体が自分でホルモン量を調節できないため、コートリル®を「決められた量」飲んで補います。



コートリル錠 (10mg)
一般名：ヒドロコルチゾン

コートリル®の飲み方

コートリルは患者さんによって服用量が異なるため、主治医の先生の指示に従ってください。

● 自分の飲むコートリルの量を確認しましょう。

1日の飲む量	朝食後	昼食後	夕食後

体調が悪いときのコートリルの飲み方

発熱があるときや体調不良時にはコートリルの量を増やしましょう。

◎ 軽度の体調不良

- ・ 37.5度以上の発熱があるとき
 - ・ 日常生活に問題はないが、倦怠感があるとき
- まず0.5錠 (5mg) 追加で飲んでください。
→ 普段の2倍量に増やします！

◎ 重度の体調不良

- ・ 38.5度以上の発熱があるとき
 - ・ もしくは、起き上がれないくらい強い倦怠感があるとき
- まず1錠 (10mg) 追加で飲んでください。
→ 普段の3倍量に増やします！

普段の服用量によって追加する量は変わるよ。次のページの表を見てね！



体調が悪い時の コトリン®の飲み方について(例)



1
1日10mgの場合
1日1回

朝食時 10mg	昼食時 なし	夕食時 なし
-------------	-----------	-----------

軽度の体調不良の時：まず0.5錠(5mg)飲んでください

症状が改善するまで	1.5錠(15mg)	なし	0.5錠(5mg)
改善した翌日から：元の量	1錠(10mg)	なし	なし

重度の体調不良の時：まず1錠(10mg)飲んでください

症状が改善するまで	2錠(20mg)	なし	1錠(10mg)
症状改善した翌日～2日目まで	1.5錠(15mg)	なし	0.5錠(5mg)
3日目から：元の量	1錠(10mg)	なし	なし

2
1日15mgの場合
1日2回

朝食時 10mg	昼食時 なし	夕食時 5mg
-------------	-----------	------------

軽度の体調不良の時：まず0.5錠(5mg)飲んでください

症状が改善するまで	2錠(20mg)	なし	1錠(10mg)
改善した翌日から：元の量	1錠(10mg)	なし	0.5錠(5mg)

重度の体調不良の時：まず1錠(10mg)飲んでください

症状が改善するまで	3錠(30mg)	なし	1.5錠(15mg)
症状改善した翌日～2日目まで	2錠(20mg)	なし	1錠(10mg)
3日目から：元の量	1錠(10mg)	なし	0.5錠(5mg)

軽度の体調不良：37.5度以上の発熱がある、日常生活に問題はないが倦怠感がある

重度の体調不良：38.5度以上の発熱がある、起き上がれないくらい強い倦怠感がある

3
1日20mgの場合
1日2回

朝食時 15mg	昼食時 なし	夕食時 5mg
-------------	-----------	------------

軽度の体調不良の時：まず0.5錠(5mg)飲んでください

症状が改善するまで	3錠(30mg)	なし	1錠(10mg)
改善した翌日から：元の量	1.5錠(15mg)	なし	0.5錠(5mg)

重度の体調不良の時：まず1錠(10mg)飲んでください

症状が改善するまで	4錠(40mg)	なし	2錠(20mg)
症状改善した翌日～2日目まで	3錠(30mg)	なし	1錠(10mg)
3日目から：元の量	1.5錠(15mg)	なし	0.5錠(5mg)

4
1日20mgの場合
1日3回

朝食時 10mg	昼食時 5mg	夕食時 5mg
-------------	------------	------------

軽度の体調不良の時：まず0.5錠(5mg)飲んでください

症状が改善するまで	2錠(20mg)	1錠(10mg)	1錠(10mg)
改善した翌日から：元の量	1錠(10mg)	0.5錠(5mg)	0.5錠(5mg)

重度の体調不良の時：まず1錠(10mg)飲んでください

症状が改善するまで	3錠(30mg)	1.5錠(15mg)	1.5錠(15mg)
症状改善した翌日～2日目まで	2錠(20mg)	1錠(10mg)	1錠(10mg)
3日目から：元の量	1錠(10mg)	0.5錠(5mg)	0.5錠(5mg)

Q ステロイドは、怖いクスリだと聞かされたけど？

A 副腎機能が低下している場合、ステロイドは体に必要なホルモンを補うためのお薬です。体に必要な分だけ補っているため、いわゆる副作用はあまり心配いりません。医師の指示どおりに飲むことが大切です。

Q 途中で飲むのを止めるとどうなるの？

A 突然服用を止めると、体に必要なホルモンが不足して重篤な症状が出る可能性があります。**ステロイドの内服を、勝手に中止しないでください。**

Q ごはんが食べられない時は、ステロイドは飲まなくてもいいですか？

A いいえ、食事がとれないときでもステロイドは必ず飲んでください。体が弱っているときほど、ステロイドは必要です。

飲めないほど体調が悪い場合は、すぐに医療機関へ連絡してください。

Q 日常生活で気をつけることはありますか？

A まずは、ステロイドを毎日忘れずに、決められた量を飲むことが大切です。

発熱・けが・強いストレスがあるときは、体がいつもより多くのホルモンを必要とするため、薬の量を一時的に増やすことがあります。

また、薬が飲めないほど体調が悪いときは、すぐに医療機関へ連絡してください。日ごろから、体調の変化に気づけるようにしておくことも大切です。

診療いただく医療機関の先生へ

この患者さんは副腎機能低下症を合併しています。
体調が悪い際には副腎ステロイド(ヒドロコルチゾン・コートリル)の増量を必要とします。

★副腎クリーゼを疑う症状を認めた時の対応

躊躇なく治療を開始して速やかに当院へ連絡をしてください。

(推奨治療例)

ヒドロコルチゾン100mg+生理食塩水(または5%Tz)100
~500mL 静注 全開投与

※血圧低下時 生理食塩水 500~1000mL/時 点滴静注
(副腎クリーゼの診断と治療に関する指針より)

★副腎クリーゼを疑う症状

血圧低下、意識障害、脱水、発熱、悪心、嘔吐、腹痛、体重減少、倦怠感、予期せぬ低血糖、低ナトリウム血症などを複数認める。

飲むことができない場合・症状が改善しない場合は入院での投与が必要ですので当院へご連絡ください。